

お忙しくても、約 2 分間で読めます

ハートフル・ワード (心からの言葉)

山内公認会計士事務所

TEL 098-868-6895

FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

尽くし続けてこそナンバーワン 高原 慶一郎 (ユニ・チャーム会長)

1. 持論ですが、病気には 3 種類あって、油断すると「心」「技」「体」で病気になる。体の病気や技、すなわち技術や技量の不調は、自覚症状がありますが、心の病気、すなわち、うぬぼれ、驕り、甘え、マンネリ、妬みはなかなか自分では気づかない。だから最も恐れるべきは、心の生活習慣病です。
2. ただ、どの病気も共通しているのは、第三者の助言や直言に、聞く耳を持たない時にかかってしまう、ということです。品質や不具合や企業の不祥事も全く同じです。世間に耳を貸さなくなった時に病気になる。常に世間に身をさらして温度差をなくすことが重要だと思います。
3. 驕れるものは久しからず、とも言いますが、誰が真の顧客なのかを見誤ってはいけません。商品やサービスの値打ちは消費者が決めるのです。だから難しいことや多くのことを言わずに、ユニ・チャームはそれらを「3 つの DNA」として仕事を通じて伝承していく文化を持っています。3 つとは「変化価値論」「原因自分論」「尽くし続けてこそナンバーワン」です。現場重視の姿勢を仕事の現場で継承することです。

(参考:「日経ビジネス」2006 年 12 月 18 日号)

人事・労務について

教育は投資

1. 高純度物質研究所 (本社・東京都東村山市・タンタルコンデンサ陽極素子の生産・開発、売上高 61 億円) は、教育は投資であるととらえている。学校教育は教育を受ける人が費用を払いますが、企業での教育は受けさせる側が費用を払う。ここが学校教育と企業教育の根本的な違いである。したがって、企業としては投資効果のない人間に、いつまでも投資し続けられませんかから、教育を受けられるかどうかは、仕事の成果次第である。
2. 中小企業大学校の研修も参加するが、技術継承も人材育成の重要な要素の一つと考えている。このため、社内向け技術雑誌「テクノマガジン」や、そのビデオ版である「テクノゼミ」を作成している。「テクノゼミ」では、定年退職する優秀な技術者などに技術について講演してもらい、ビデオで撮影し技術の継承に生かしている。

(参考:「日経ベンチャー」:2007 年 1 月号)

人事・労務について

終身雇用制を再度考える

1. 世界で一番やる気のないのは、日本人という調査結果がある。タワーズ・ペリン社によれば、「仕事は非常に意欲的」な日本人はわずか 2% で 16 ケ国中 16 位、「非意欲的」が 41% でインドの次ぎに多い。そして、日本人は報酬・昇進より安心・安定・低ストレス・家族的雰囲気と分析されている。日本経団連は、三角合併など外資への防衛策、すなわち経営者自身の保安策の陳情に大わらわだ。グローバル化は、経営者・従業員を問わず日本人を怠惰にしまったようである。
2. ドラッカーは「日本は終身雇用によって実現してきた社会的な安定、…日本の解釈が他の国のモデルになるだろう」と言った。本来、終身雇用こそ、最も意欲的になれる環境なのである。

(参考:「週刊東洋経済」2006 年 12 月 30 日号)

・2007 年 1 月 6 日号)

古典に学ぶ

田中の一粟をも捨てるな

「自家田中の一粟をば棄つること勿れ。隣人の畝中の一菜をも摘むこと勿れ」

(訳) 自分の田で作った一粒の粟も捨ててはならない。隣の人の畑から一本の菜もとってはならない。

(参考:佐藤一斎「言志四録」:PHP 文庫)